

本問題集で収録している昔話

- ・ 十二支のお話
- ・ こぶとりじいさん
- ・ 一寸法師
- ・ ダイコンが白いわけ
- ・ わらしべ長者
- ・ 笠地蔵
- ・ ウサギとカメ
- ・ 田舎のネズミと町のネズミ
- ・ おむすびころりん
- ・ 浦島太郎
- ・ 分福茶釜
- ・ 鶴の恩返し
- ・ 桃太郎
- ・ 金太郎
- ・ ネズミの嫁入り
- ・ 舌切りスズメ

※お話の題名、表記、内容は、本問題集用に編集していることがあります。なるべく平易な表現に編集していますが、現代では馴染みのない物が出てきたり、昔話そのままの表現を大切にしたりしている部分があります。また、昔話は地域によって伝承の内容に差異があり、知っているお話と内容が異なることがあるかもしれません。その点にご注意いただき、適宜お子さまに補足の説明をしていただくなどしてご使用ください。

※本問題集は、「昔話→問題1→問題2→解答用紙1→解答用紙2（以降は、問題3→問題4・・・と連番）」を1セットとして問題を構成しています。問題1と問題2を同時に取り組んでもよいですが、昔話を理解するという観点で言えば、問題1を一通り解いた後に問題2を解いた方が、昔話の記憶の定着はよくなりますので、ぜひ問題1と問題2を分けて取り組んでください。

「分福茶釜」

昔々、お寺の和尚さんがお茶を淹れるために茶釜を買って来ました。この茶釜は不思議な茶釜で、茶釜から手足が生えたり、お湯を沸かそうとすると「熱い熱い！」と飛び上がるのでした。和尚さんが困っていると、いらなくなった物を集めて売る仕事をしている屑屋さんが通りかかったので、茶釜を屑屋さんに譲りました。屑屋さんが茶釜を持って帰ると、茶釜が話し出しました。「私は、山のタヌキです。猟師から逃げるために茶釜に化けたのですが、戻れなくなってしまいました。」と言うのです。可哀想に思った屑屋さんは、茶釜を大事に預かることにしました。ある日のこと、茶釜が「私が芸をするので、お店を開きましょう。」と言いました。茶釜の言う通りお店を開くと、珍しい茶釜が見られると大評判になりました。貧しかった屑屋さんは、いつの間にか大金持ちに。そんなある日、屑屋さんはこう言いました。「タヌキさん、今まで本当にありがとう。タヌキさんも疲れただろうから、お寺に戻ってゆっくり休むといいよ。」そして、屑屋さんは茶釜を持って久しぶりにお寺に行きました。「和尚様、これは幸せを分けてくれる茶釜です。どうかお寺でゆっくり休ませてあげてください。」やがてこの茶釜は、福を分けてくれる「分福茶釜」と呼ばれ、ずっと大事にされたということです。

